

そだちのねっこ♪

～乳幼児期の遊びより～



「お花屋さんですよ～。お花はいりませんか？」

～遊びを通した学びの芽生え～



11月10日(金)、4歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

秋の自然物を使ってケーキ作りを楽しみ、ケーキ屋さんで売り買いする姿、乗り物の図鑑を見ながら、空き箱で車を作り走らせて遊ぶ姿、ヒーローやアイドルになりきるためのグッズを身に付け、踊ったりポーズを決めたりする姿など、いろいろな素材から自分で選んでイメージしたものを作ろうとする姿が見られました。自分のしたい遊びを見つけて、存分に楽しんでいることが子どもたちの笑顔や遊んでいる様子からうかがえました。

その中で、「お花屋さんやってますよ～」と呼びかけているA児とB児がいました。お花紙や折り紙を使って、立体や平面の色とりどりのお花をつくり、売っていました。

保育者「すみません、花束ください」

A児(しばらく考えて)「たばですか?たばはないです」

保育者「そうですか～。それでは、3つをセットにしてもらえますか?」

A児「あっわかりました。すぐにできるので待っててください」

しばらくして…B児「できましたよ～」と、3つのお花をセロテープでひっつけた花束を渡してくれました。



保育者「ありがとうございます、綺麗な花束でうれしいです」

B児「はい、花束です!」

A児「あの～、お花がなくなってみんなにすぐに渡せなくなるので、ご飯食べたら返してくださいね」

保育者「わかりました、また返しに来ますね」

(遊びの後)クラスの話し合いでA児とB児が揃って「お花屋さんをして楽しかった」と伝えていました。

担任「いっぱいお花、売れましたか?」

A児「売れたけど、すぐになくなってしまっているので、買った人は返してください」

C児「そしたら、みんなで作ったらいいんちゃう?」

D児「いいやん!10個くらい作ったなら、いっぱいになるやんな!」

A児「あ～、でもでも、みんなじゃなくてもいいよ。作りたい人きてね～」

B児「作り方、教えるから～」

～給食終了後の様子を覗くと…～

E・F児「Aちゃん、ここはどうやるの?」「セロテープ貼れたよ」

A児「ちょっと私、違うところ行ってくるわ」

E児「えっ?」「どうやってつくるか、わからんやん」

F児「できてるお花、見たらいいやん!」「こうしたらいいんやな!」

E児「Bちゃん、これでいい?」

B児「いいよ。私がフワッとさせてあげるわ」手でやさしく包み込む…。

子どもたちが言葉でのやりとりをしながら、どんどんと遊びを進めていました。自分が作ったものが認められたり、頼りにされたりすることで、発言する声も大きくなり表情が生き生きとしていました。それは確かにその子どもの自信につながっていると感じる瞬間でもありました。

また、遊びを通した学びの芽生えの部分も見逃せません。幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を考慮した保育者のかかわりや環境構成することで、『人への優しさ』『自分の考えを伝える力』『友だちとイメージを共有して遊びを進める力』などの育ちにつながったと思いました。

遊びを楽しむ中で、『遊びから学ぶ』という育ちのねっこの重要性を実感しました。

